

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所重症児デイサービス実のり		
○保護者評価実施期間	R6年12月1日		～ R7年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	R6年11月1日		～ R7年11月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	年 月 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	常勤で理学療法士が在籍しており、毎日のリハビリを提供することで児童の身体機能の維持・向上、基本的動作の獲得を目指すことが出来る。	<ul style="list-style-type: none"> ・同じプログラムを継続することで、変化をわかりやすくし、できることを増やしていきます。できないことも定期的にチャレンジすることで成長に合わせたリハビリを行います。 ・理学療法士が児童の過ごす姿勢やポジショニングの指導・伝達を多職種に行い、リハビリ以外の時間でも発達を促し、側弯や拘縮の予防を行っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用頻度の少ない児童に対して訪問を行い、現状の確認やリハビリの指導、相談をしています。 ・新しい技術や手技を取り入れ多種多様な児童に合わせたリハビリを提供できるように研修の参加をしています。
2	重症心身障がい児者の施設や小児経験の豊富な看護師が複数名在籍しているため、幅広い医療的ケアに対応ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ間で医療的ケアに関する研修を行い、ケアを確実に行えるように努めています。 ・各児童に申し送りノートを取り入れることで途切れない支援を行っています。 ・ケア内容を見える化することで事故防止に努めています。 	外部の研修や定期的な支援会議を行い、よりよいケアが提供できるように努めています。
3	保育士が作成する療育プログラムの元、運動遊びや感覚遊び、制作、季節行事、クッキング(ペロリデイ)、遠足を提供している。外部講師の音楽療法士による音楽療法を取り入れている。	<ul style="list-style-type: none"> ・一週間の中に色々な活動を取り入れ、様々な療育が楽しめるようにしています。 ・療育活動で遠足を取り入れ、集団行動を行うことで社会性を養っていきます。 ・音楽療法時には各児童の音の受容度に合わせて音楽療法士がマンツーマンで音楽を提供していきます。 	参加費のかからない遠足を増やすことで家族の負担を減らし、誰でも参加しやすい遠足を企画していきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がもてない。	感染症の心配から交流は控えたいと考えています。	児童クラブや児童館等、地域の他の子どもたちとの交流は考えていませんが、散歩やハロウィンイベントでは地域住民と関わる機会をもち、事業所への理解や連携がもてる関係を築いています。
2	保護者を対象とした保護者会や研修の開催がない。	事業所を開所し、今のところ年に2回の家族参加イベントを開催し保護者同士の交流、きょうだいの参加も積極的に受け入れ交流の場を設けるところまででの実施状況。	保護者同士で交流ができる時間を設けて保護者様のご意見も伺いながら、保護者会等の開催を増やしていきたいと考えています。
3			